

## 奥利根 東メーグリ沢左俣～板幽沢

坂村

【日時】 2013年9月22日(日)～9月23日(月)

【メンバー】L坂村、藤岡、古野、鈴木

国土地理院の地形図で「西メーグリ沢」と表記されている沢は実は東メーグリ沢の右俣、「東メーグリ沢」と表記されている沢は東メーグリ沢の左俣なのだそう。東メーグリ沢の右俣の記録を探すといろいろと出てくるが、左俣の記録が見つからない。遡行に値しない沢なのかなんなのか。敗退覚悟で行ってみた。

9月22日(日) 晴れ

矢木沢沿いを15分程度の林道歩きで堰堤まで行き、ここから矢木沢の遡行を始める。暫くは平凡なゴーロ歩き。天気が良く、水も綺麗で、ゆったりとした気分になる。幽巖



矢木沢本流の不思議な岩間を通過する

沢は矢木沢が右に大きくカーブするところに注ぎ込む。ここから沢はゴルジュ地形になった。花崗岩の岩をへつって通過したらまたしても河原歩き。カルマリ沢、ブナ沢を通過すると東メーグリ沢(地形図では「メーグリ沢」)出合だ。

東メーグリ沢に入り、2mの小滝を過ぎたら8m

の滝が現れる。とても登れそうにないので、左岸側から巻く。巻きはしっかりと歩いて、なんとなく通過。続く3段トイ状の滝を過ぎて暫く行くと、二俣に到着した。

「ヤバイ…」

左俣は倒木で溢れかえっている。「つ、突っ込む?」「どうする?」「まずは落ち着け」「話し合おう」そんな会話が交わされた。美しい右俣を眺めながら暫し休憩し、空身でちよいと偵察に行くことにした。入り口がイマイチでも中は美しい沢もある。が、少々偵察に行った程度では倒木地帯を突破できなかった。決断の時。考えたところでノーアイデア。えーい、行ってまえ!



倒木と格闘しながら暫く行くと、2段スダレ状の12m滝があった。よかった。こんな沢でも綺麗な滝があった。登るのは無理そうなので左岸側から巻く。4mの滝を超えたら15mの滝が現れた。登りも巻きもできそうだが、今日は行動時間が長いし、巻いた方が絶対に早そうだったので巻くことにした。

暫く行って二俣に到着。最初の二俣は右へ、奥の二俣は左へ行くことに計画段階から決めていた。その方が少しでも長く沢型を歩けそうだったからだ。しかし奥の二俣で少し迷った。右はナメ、左は藪。右に行っても雨ヶ立山には行ける。となると当然右に行きたい。だがそこをぐっところえて、「左は行きたくない感じだけど、計画通り左に行きます」と宣言した。すると藤岡さんからの温かい返事。「行きたくないのは最初の二俣からやから、気にせんといてー」

やがて水が枯れ、藪漕ぎとなる。しかし思ったほど藪は濃くなく、パワーに欠ける私でもなんとか先頭で頑張れる。藪の濃い部分になると何気に藤岡さんが先頭を代わってくれたりした。そして雨ヶ立山山頂に到着。山頂は藪の中だった。展望はないが、人があまり来ないピークに立てた喜びで清々しい気分になった。

板幽沢への下りはしばらく藪漕ぎ。古野さんと鈴木さんの藪山魂が炸裂して、もうどうにも止まらない。藪は濃くなく比較的歩きやすかったが、笹が下向きに倒れているものが多く、登りは大変だろうとの鈴木さんの見解だ。沢型が現れると、小滝が次々現れるが、どれもクライムダウン可能だった。二俣に到着し、今夜の寝床を探した。

9月23日(月) 雨

雨は夜のうちから降っていたが、小雨程度だったので増水はしていない。今日は沢の下降だけだから気が楽だ。

歩き始めて次の二俣まで滝を下ったり巻いたりしながら行く。クライムダウンが難しいところには巻道にトラロープがかかっている場合もあった。沢は綺麗で歩きやすい。美しいナメもある。のんびりと遡行しても楽しいのだろう。二俣を過ぎて広い河原でひと休み。沢の横に仕事道らしきものがあつたが、藪っぽそうだったのでそのまま沢を下ることにする。そこから先も滝はところどころ現れる。白濁した流れの崩壊地を抜け、いくつかの滝を超えると宝川温泉に向かう林道に架かる橋と出合った。



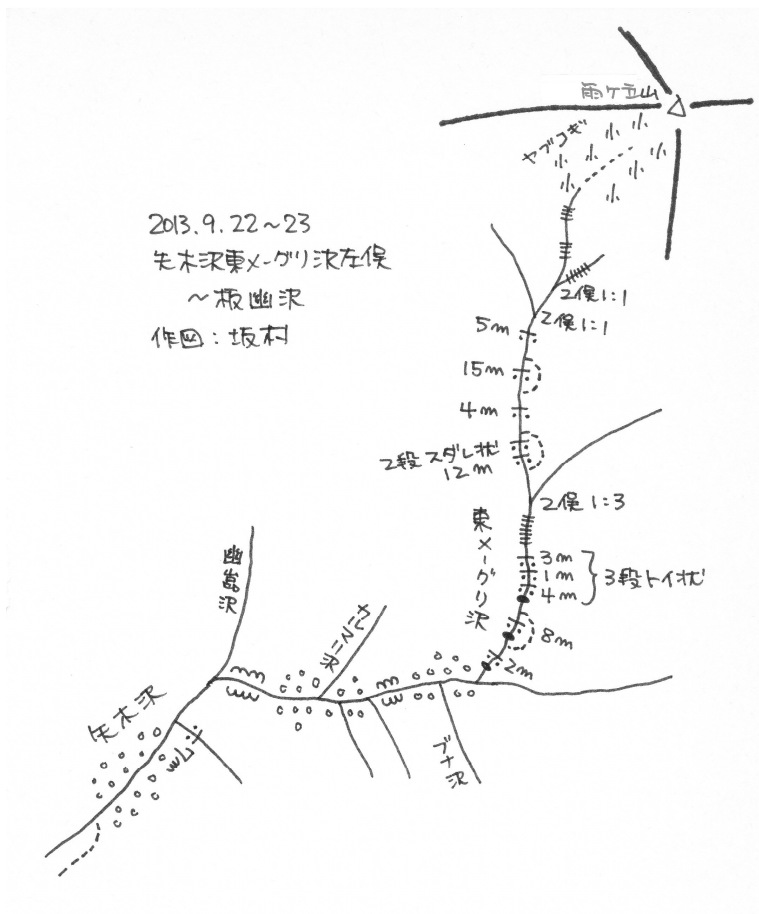
スダレ状の美滝



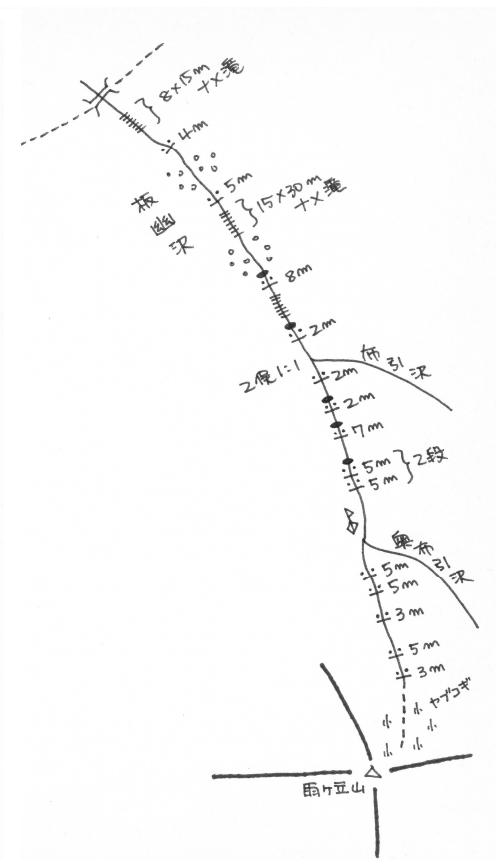
【グレード】 総合2級上

【地図】 藤原、茂倉岳

【行程】 9/22 林道入口(7:45) ~ 林道終点(8:00) ~ 東メーグリ沢出合(9:00) ~  
二俣(10:10) ~ 雨ヶ立山(14:00) ~ 奥布引沢右俣下降 ~ 二俣(16:00) 泊  
9/23 泊地(7:30) ~ 板幽沢下降 ~ 板幽沢橋(11:00)



東メーグリ沢～雨ヶ立山



雨ヶ立山～板幽沢